

養護教諭として心理学を学んで

浅野中学・高等学校養護教諭

樋口純枝 (ひぐち すみえ)

暇なイメージの養護教諭

私は養護教諭として中高一貫の男子校で働いています。いわゆる保健室の先生です。今年で15年目になります。生徒からは「暇でいいね。これで他の先生と同じだけお給料もらえるんでしょ」とよく言われます。

保健室の先生は暇なイメージがありますが、実はいろいろと忙しいのです。けがや病気への対応はもちろん、相談活動や事務仕事もあります。忙しいときには昼食をとることも、トイレに行くこともできないことがありますし、事務仕事を家に持ち帰ることもあります。「私もいろいろと忙しいのよ!」と言いたくなることもあります。私はこの生徒たちの言葉を最高のはめ言葉として受け取っています。ある研修会に参加した際、講師をされていた臨床心理士の方に「忙しい人には相談しにくい。暇そうな人でないとゆっくり話を聞いてもらえないと感じる」と教えていただきました。暇だと言われる私は、人の話を聴くことのできる場を提供することができているのかもしれないと、勝手に思っています。

心理学を学ぼうと思ったきっかけ

養護教諭として生徒や保護者とかかわっていくうちに、心理学を学ぶ必要を感じはじめました。心理学の知識や技術を身につければきちんとした対応ができるのではな

いかと思ったからです。しかしまだそのころは「機会があれば」という程度の思いでした。

そんな私の思いを変えたのは、アスペルガーの生徒との出会いでした。当時初めて聞く名前と、彼の行動や思考に戸惑いました。彼の困っていることや納得できないことについていっしょに話し合い、解決策を考えていきました。手探り状態で試行錯誤しているうちに6年が経ち、彼は卒業しました。この6年間で彼とのラポールは築けたのではないかと思います。対応はこれよかったのかと後悔が残りました。やはりきちんと心理学を学び、知識と技術を身につけなければいけないと強く感じました。

しかし、いざ心理学の勉強をはじめようと思ってもどうすればいいのかわかりませんでした。大学に行くといっても仕事があります。仕事をしながら勉強するための方法を模索していたところ、武蔵野女子大学(現・武蔵野大学)で通信制がはじまるということで資料を取り寄せ、入学しました。3年生に編入し2年間で卒業するはずだったのですが、留年・休学で4年かかってしまいました。

認定心理士の資格をいただいて認定心理士証が家に届いたとき

Profile — 樋口純枝

1996年、千葉大学教育学部養護教諭養成課程卒業。同年から現職。2002年、武蔵野女子大学通信教育部人間関係学部に入學し、心理学を専攻。2006年、同大学を卒業し、認定心理士取得。



保健室にて

はともうれしかったです。大学の卒業証書よりもうれしかったかもしれません。直接この資格が役に立っているわけではありませんが、以前よりも自信をもって仕事ができるようになりました。もちろん、迷ったり不安になったりすることは多々あります。しかし心理学を学んだことは仕事だけでなく、私生活においても大きな支えになっています。

認定心理士は「心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と、日本心理学会が認定する資格です。養護教諭として働く私にとっては現在のところこの資格で十分かもしれませんが、将来それだけでは太刀打ちできない日がやってくるかもしれません。そのときには、またしっかりと心理学を学ぼうと思います。それまではカウンセリングを学んだり、さまざまな研修会に参加したりしながら、心理学にかかわってゆきたいと考えています。